

## 刊行のことば

寺川俊昭先生が五十才を過ぎた頃であったと記憶しているが、ある日満面の笑みを湛えながら親鸞聖人の仏道の核心が分かりましたと言つて、躍り上がらんばかりの喜びを表現されたことがあつた。それは、称名念仏による「真如一実の功德宝海」の感得、つまり涅槃界の自証であると、身体中で説法獅子吼されたこと、その説法に無類の感動をおぼえたことが昨日のことにように思い出される。

想えば、清沢満之先生は『歎異抄』に依つて信心を獲得され、その思想を表明された。清沢先生から「如來我を救うや」という実存的な課題を継承した曾我量深先生は、清沢先生が充分になしえなかつた『教行信証』研究によつてその課題を問いながら、親鸞の仏道の積極性を願生浄土と尋ね当てた。寺川先生は求道的関心に立つた『教行信証』研究の思索の中から、その願生浄土を、大般涅槃道にまで根源化して捉えて下さつた。清沢満之先生に始まる近代教学が、曾我・寺川と伝統され、親鸞の仏道の積極性を大般涅槃道にまで尋ね当てたときに、親鸞が浄土真宗を「大乘の至極」として明らかにした意味を、正確に捉えたことになるのである。

寺川俊昭先生の親鸞の思想研究は、清沢満之研究に始まつて、『歎異抄』研究に展開し、さらに『教行信証』研究へと極まつていく。その先生の研究・思索の跡が、このたび選集として刊行されることになつた。寺川先生の選集の発刊は、曾我、金子、安田諸師の選集刊行に続いて、近代教学の歴史的な意義を公にすることである。その歴史的な仕事に参画させていただいたことに、大きな喜びを禁じ得ないことである。

寺川俊昭選集刊行会

延塚 知道